なみき通信

桜並木学園つくば市立並木小学校　第25号　11月２日発行



TOPICS

「活字」に親しみ 豊かな心を育むために
～読書調査の結果と、並木っ子の素晴らしい読書環境～

先日の新聞報道において、小中学生の「読書ゼロ（不読率）」の増加が5年連続で上昇し、25年ぶりに1割（13.4%）を超えた（全国学校図書館協議会調査・令和8年6月実施）というニュースが伝えられました。スマートフォンや動画視聴の普及により、全国的に児童生徒の活字離れが懸念されるという内容でした。「全国学力・学習状況調査（6年生が4月に実施）」の児童質問紙にも、読書についての項目があります。その分析をもとに、本校の実態についてお伝えいたします。

【並木小学校の「強み」　豊かな環境と読書のきっかけ】

- 「家に本が26冊以上ある」と答えた児童は82.3%（全国平均63.2%）にのぼり、100冊以上ある家庭も半数を超えています。ご家庭で日常的に活字に触れられる環境が整っていることは、本校の大きな財産です。
- 学校図書館だけでなく、つくば市の地域図書館を月に数回利用する児童の割合も全国平均を大きく上回っています。

また本校では、読み聞かせボランティアの皆様による朝や昼休みの読み聞かせなど、子どもたちが本に親しむ温かい機会を継続的に作っていただいています。図書ボランティアの皆様にも、学級文庫の入れ替え等を行ってくださっており、子どもたちがいっそう多様な本と出会う機会を作っております。ご家庭、地域での環境づくりのおかげで、子どもたちの中に「本を開くきっかけ」がしっかりと根付いております。本当にありがたいことです。

【課題と今後の取り組み】

一方で、「1日30分以上のまとまった読書をする習慣」のある児童は23.7%と、全国平均（26.1%）をわずかに下回る結果となりました。「本はある・図書館にも行くが、毎日のまとまった読書時間には至りにくい」という現状がうかがえます。文字をじっくり読み込み、思考を深める「読書時間」は、学力向上はもちろん、豊かな感性や共感性を育むためにも非常に大切です。学校でも引き続き、子どもたちが楽しく読書できる環境づくりや、読書をより深められるような様々な活動を子どもたちと一緒に考えながら進めてまいります。学校・家庭・地域が力を合わせ、子どもたちの豊かな言葉と心を育てていきたいと考えております。



休み時間の図書室の様子
新着図書コーナー



学校司書の先生
によるガイダンス



季節の読み物コーナー